

天文 14

## 「夏の星空」

天文担当 片野田 裕亮

皆さんは、「夏の星空」と聞いて何を思い浮かべますか？夏は、天の川や織姫星<sup>おりひめ</sup>と彦星<sup>ひこぼし</sup>、さそり座、ペルセウス座流星群などの馴染みのある星や星座、天文現象が多く、見どころ満載の季節となっています。

今回は、そんな「夏の星空」の中から、「天の川」、「さそり星」、「ペルセウス座流星群」について紹介します。

## ■ 天の川

夏の星空を2つにわけるように広がる白く淡い帯が、「天の川」です。ガリレオ・ガリレ



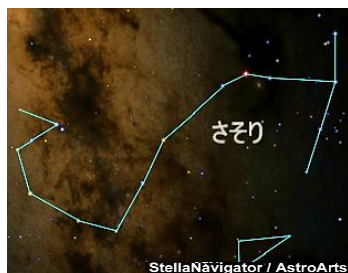
Photo by S.Ueda

イは望遠鏡を使った観測により、天の川が無数の星の集団であることを発見しました。

天の川を観察すると、中央に星の数が少ない黒い部分があります。この部分は、「暗黒星雲」と呼ばれ、ガスや塵が多く集まっています。暗黒星雲は、特にガスや塵の密度が大きく、背景の星の光を遮<sup>さえぎ</sup>るため、黒く見えています。暗黒星雲には星の材料がたくさんあり、新しい星が誕生しています。

## ■ さそり座

夏の代表的な星座である「さそり座」は、黄道十二星座や誕生星座として知られています。



StellaNavigator / AstroArts

この星座は、一等星である「アンタレス」を中心に、釣り針のような星の並びをしており、星座絵では、冬の星座である狩人オリオンを倒したサ

ソリとして描かれています。日本ではその形から「魚釣り星」と呼ばれていました。

星や星座にまつわる多くの物語を残した宮沢賢治は、代表作「銀河鉄道の夜」や「双子の星」、作詞作曲した「星めぐりの歌」などに、「赤い目玉のサソリ」として登場させています。

## ■ ペルセウス座流星群

毎年8月に極大を迎える「ペルセウス座流星群」は、1月の「しぶんぎ座流星群」や12月の「こと座流星群」と並ぶ三大流星群の一つです。

流星のもととなる塵（流星物質）を残した母天体<sup>たい</sup>は、スィフト・タートル彗星<sup>ちり</sup>です。この彗星が公転軌道<sup>こうてんきどう</sup>上に残した塵と地球がぶつかると、流星が発生します。

今年の極大日は8月13日となっており、その前後1週間は観察できます。特に13日は



Photo by S.Ueda

新月のため月明かりの影響がなく、観察するには好条件となります。極大の時期が夏休みと重なり、多くの人の注目を集める流星群です。

流星は空全体に現れます。なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。また、目が屋外の暗さに慣れるまでに時間がかかるので、最低でも15分ほどは観察を続けましょう。レジャーシートを敷いて地面に寝転んだり、座ったりするなど楽な姿勢で観察してください。街明かりの少ない安全な場所で、マナーを守って観察しましょう。

今回紹介した星座以外にも、夏は様々な星や星座を見ることができます。裏面の星図を参考にし、今年の夏は、ぜひ星空観察に挑戦してみましよう。

# 夏の星座

北

～使い方～

空にかけて方角をあわせて使いましょう。



- ☀ 1等星
- ★ 2等星
- 3等星以下
- ☁ 星雲・星団

6月15日 1時頃  
 7月15日 23時頃  
 8月15日 21時頃

南

東

西